

2021年5月22日(土)
12:00 開演 (11:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂
主催 公益財団法人 十四世六平太記念財団
協力 一般社団法人喜多流職分会

第49回
喜多流
青年能

芦刈 ● 友枝雄太郎
半部 ● 狩野祐一
猩々乱 ● 高林昌司

チケットご購入のご案内

一般前売券 3,500円(当日券 4,000円) / 学生前売券 2,000円(当日券 2,500円)

発売日: 2021年3月27日(土) 午前10時～

●全席 自由席

●チケット予約購入のご案内

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
キャッシュレス決済を推奨させていただきます。

●インターネット24時間対応 / 要事前登録(無料)
喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>

【お受け取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された受付番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②窓口(喜多能楽堂事務局)

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された受付番号を窓口にご提示の上チケットをお受け取りください。現金でのお支払いはできません。

●電話予約

喜多能楽堂事務局 03-3491-8813

午前10時～午後6時 / 休館日あり、営業時間短縮あり

【お受け取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。
入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③窓口(喜多能楽堂事務局)

ご予約の際お伝えした受付番号を窓口にご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金のみとなります。

※お受け取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際にご案内いたします。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

当能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染症の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改定を行いものとさせていただきますので、ご来場の前には当能楽堂HPにてご確認ください。お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。



●次回喜多流青年能予告
2021年9月25日(土)
13:00 開演

能 経政 ● 金子龍晟
能 紅葉狩 ● 谷友矩

●窓口

喜多能楽堂事務局 03-3491-8813

【お受け取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

●各同人でもチケットを受付しております。

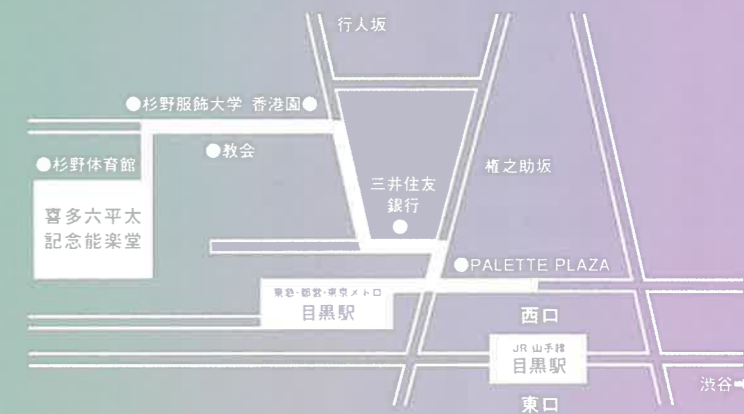
*ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。感染症拡大防止のため、2階ラウンジでのご利用の制限をさせていただくことがあります。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎 4-6-9

TEL 03-3491-8813



JR線、東急目黒線、都営三田線、東京メトロ南北線ともに目黒駅下車、徒歩7分

※当能楽堂には駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います

※許可なき写真撮影・録音・録音等は固くお断りいたします

喜多流
青年能

番組組

仕舞

賀茂 谷友矩

能

金子龍晟

シテ連・左衛門の妻

友枝雄太郎

芦刈

野口能弘

ワキ・従者

野口琢弘

ワキ連・従者

吉田祐一

ワキ連・従者

山本則秀

間・難波の里人

長島茂

後見

友枝雄人

狂言

鬼瓦

山本泰太郎

シテ・大名

休憩二十分

山本則孝

アド・太郎冠者

能

前シテ・夕顔の上の霊
後シテ・里女

狩野祐一

半部

則久英志

ワキ・僧

山本則重

間・五条辺の者

能

高林昌司

シテ・狸々

狸々乱

殿田謙吉

ワキ・高風

中村邦生

後見

狩野祐一

地謡

高林昌司
塩津圭介
佐藤寛泰
佐藤陽

亀井洋佑

大鼓
小鼓

栗林祐輔

笛

高林昌司
栗谷浩之
佐藤陽
内田成信
友枝真也
狩野了一
谷友矩
佐々木多門

地謡

山本則孝

柿原孝則

大鼓
小鼓

小野寺竜一

笛

金子龍晟
塩津圭介
谷友矩
佐々木多門
佐藤寛泰
金子敬一郎
友枝雄太郎
大島輝久

地謡

休憩十分

亀井広忠

大鼓
小鼓

金春惣右衛門

太鼓
笛

友枝大風
栗谷充雄
佐藤寛泰
友枝雄人
友枝真也
高林呻二
佐藤陽
大島輝久

地謡

終了時刻 午後四時半過ぎ頃

芦刈

撰津国日下の里に住んでいた日下左衛門(くさかのさえもん)の妻(ツレ)は家が没落したため、夫と別れ、京に上り、高貴な人の家に乳母として奉公するようになり、妻は従者(ワキ)を伴って難波に下り、夫の行方を探します。里人に尋ねると、以前のところにはいないと言わますが、しばらく留まり付近を探すことにします。

その頃、夫(シテ)は没落し、芦を売り歩くものになっていました。ある日妻の従者は、芦を売る男が夫であるとは知らずに声をかけ、芦を求めます。男は芦の異名についてや御津の浜の由来について語り、和歌を交えた謡を謡いながら舞を見せます。その後、芦を渡しに行くことになり従者について行くのですが、そこには妻がいたことに気付くのですが、自らの今の身を恥じて急いで小屋へと隠れてしまします。妻は自ら夫のもとを訪ね、優しく説得し、お互いの心情を和歌に込めることで打ち解けます。夫婦再会を祝い、従者の勧めで夫は装束を改め舞を舞い、妻とともに京へと上って行くのでした。

半部

雲林院の僧(ワキ)がひと夏のあいだ仏に供えていた花々を供養していると、夕顔の花の陰に一人の女(前シテ)がふと現れます。彼女はただ五条辺りの者とだけ名乗ると、姿を消していきま(中入)す。僧は京の男(アイ)に女のことを尋ねます。それは『源氏物語』に登場する

夕顔上の霊であろうと教えられ、五条辺りに赴くことにします。そこには、半部(格子状の上部を外側へ上げ開く扉)の庵があり、内から夕顔上の幽霊(後シテ)が現れます。僧の回向の声に、光源氏とはじめて契りを交わした日のことを思い出し、その馴れ初めの記憶を語り、舞を舞います。やがて朝になると、再び庵の内へと姿は消えていき、僧の夢は覚めていくのでした。

狸々乱

中国の金山の麓に高風(ワキ)という者がいました。彼は親孝行者であったために、夢の中で、揚子の市に出て酒を売ると富み栄えるというお告げを受け、それに従うと、彼は次第にお金持ちになりました。ある日、童子(シテ)が一人店へ訪れました。彼は酒を次々と飲んでいくものの、全く顔色を変えず酔う気配がありません。不思議に思った高風が素性を尋ねると、海中に住む狸々であると名乗り姿を消していきます。高風は潯陽のほとりで酒壺を用意して狸々が現れるのを待っていました。やがて狸々が現れ、高風と再び会えたことを喜び、盃を交わします。狸々は限なく輝く月星を賛美し、芦の葉が風に吹かれて笛のように鳴り響く音色や、鼓のように響く波の音に乗って舞を舞います。そして、高風には酒が尽きることなく湧き続ける酒壺を授けていきます。酔いも進み、高風が目覚めるとその酒壺だけが残っており、その後も彼の家は末永く栄えていくのでした。(狸々乱では通常の狸々とは異なり、中の舞を舞わずに足遣いが特徴的な演出に変わります)